

地域のかお シリーズ 94

「地域の安心・安全を願って」

旭町児童クラブ

放課後児童支援員 浮島 恭子

はじめまして。旭町児童クラブの浮島恭子と申します。放課後支援員として子ども達の放課後の活動を見守り続けて丸7年が過ぎようとしています。6年前、1年生だった子ども達も3月には小学校卒業を迎えます。背も私より高くなり、二次成長を成し遂げようとしている中、思考明晰なコミュニケーションを繰り広げていく子ども達に日々接する機会をいただき、本当に刺激の多い楽しい60代を過ごしています。

ところで私は、昨年4月から広瀬地区の民生委員・児童委員として活動も始めました。きっかけは自治会からの声掛けでした。民生委員・児童委員がどういうものかよく知らずに引き受けたというのが当時の状況でした。考えが浅いまま引き受けてしまい、この新型コロナウイルス感染拡大の中、なかなか初対面の人の家に伺いづらく、どうしたらよいかと思案するばかりで時間だけが過ぎていってしまった10ヶ月間でした。何もできないこのもどかしさは、何とも言えません。その中でも地域の中でだんだんと私を覚えていただき、お会いすると笑顔で対応してくださる皆様にホッとすると同時に私より体験・経験の多い方々からいろいろと学ぶことも多い日々を過ごしているところです。

広瀬地区には、現在15人の方々が民生委員・児童委員、主任児童委員として活動されています。

「支えあう、住みよい社会、地域から」のキャッチフレーズを合言葉に、

1. 住民の立場に立った活動を行う。
2. 福祉問題の解決には、時間をかけて環境や条件を整備し継続的に対応を行っていく。
3. 地域社会全体の課題には、一面的にではなく、包括的、総合的な視点に立った活動を行う。

を、活動の原則としています。そして、この原則が私の活動の原点となっています。しかし、今の私は地域の関係機関や専門知識も少ないため、それをどう制度や支援につなげていくか未だ力不足の状態です。全てのことがこれからですが、焦らずゆっくり一つ一つのことを深めていきたいと思っています。

今、コロナ禍の中、地域で人と人が繋がる接点、例えば、お祭りなどの地域行事、冠婚葬祭、防災への取り組み、社会教育の取り組みなど、「接着剤」としての機能が衰退化しています。このように地域の人々のつながりが希薄化していく中、近隣の人々の暮らしを気にかけて、声掛け、躊躇なく手を差し伸べられる「見守り」を目指して、自分も少しだけ「世話焼きおばさん（気持ちだけ）」になろうと心がけています。もし、同じ地域で生活する近隣住民の方々が「生活上に困難が生じて声を上げられない人」に気づかれましたら、ぜひお気軽に、その情報を近くの民生委員・児童委員、主任児童委員にお話いただけると幸いです。

